
カエル男とヘビ女と上司

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カエル男とヘビ女と上司

【コード】

N5012H

【作者名】

会津遊一

【あらすじ】

ある場所で、首を絞めたいと思っている男と、噛み付きたいと思っている女が出会ってしまい……。

僕には、俯いた顔を上げることは出来なかった。

白く濁った脂汗を額から滲ませ、ジツと耐える事しかできなかった。もし、眼前に立っている女性を見てしまったのなら、その美しい首を絞めてしまうからだ。

大理石の様に艶やかな首筋、ぷつくらと膨らんだ頸動脈がまるでネツクレスのように輝いている。

僕が、彼女の気道を親指で押しつぶし、他の指が白い肌に食い込んでいく姿を想像するだけで、鼓動が高鳴ってしまふ。

何故、こんなにも絞めたくなる首をしているのだろうか。

カウンターのの上に置いてあるメニユー表を見詰めるしか出来なかった。

このままじゃ僕は犯罪者になってしまう、と感じた。

同じ店内にいる限り、どうしたって彼女とは顔を合わせることになるのだ。

逃げることは出来ない。

最悪、この両腕を切断すれば絞殺しなくてすむだろう。

しかし、それでは仕事が出来なくなってしまう。

僕は思い悩んだまま、その場に立ちつくしていた。

私には、目を背けることが出来なかった。

眼球が乾いて頭痛が起ころうとも、瞼を開ける事しかできなかった。もし、あの俯いている男が、レジの前から消えてしまったのなら発

狂ってしまう。

それほど、彼の汚い皮膚を嚼み千切りたかった。

荒れ果てた大地のように乾燥した肌に、吐き気を催すニキビが潰れてくれと列を作っている。

私が、そこに白い歯を突き立て、暴れる彼の身体に手足を巻き付けている姿を想像するだけで、下腹部の奥が疼いてしまう。

何故、こんなにも噛み付きたい体をしているのだろう。

このままじゃ私が犯罪者になってしまう、と感じた。

どうせなら、あの不細工がキレて私を襲ってくれると、やり返すチャンスが生まれるというものだ。

しかし、如何せんキモが小さい小物。

ジロジロと見詰めるだけで、きつと何もしてこない。

こっちの我慢はもう限界だというのに。

私はどうすればいいのだ。

「どうもこうもない。遊んでないで仕事しろ」

バーガーショップ店長の叱責が飛んだ。

その顔は、ナメクジのように白く、触れると糸を引いていそうだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5012h/>

カエル男とヘビ女と上司

2010年11月13日03時02分発行